

**第477回 3月25日開催
出席委員（50音順・敬称略）**

大村 英昭 木下 明美
黒田 勇 櫻井 美幸
深井 麗雄 森 輝彦
荒巻 裕（書面参加）

ラジオ番組

**「ナニワ音楽（ミュージック）ショウ」『大西ユカリの新世界』
03年3月11日（火）午後6時30分～8時 放送分**

***黒田委員**

新しいパーソナリティーを育てようという局の姿勢は大事だが、大西さんはまだまだディスクジョッキーとしての力量が不足している感じがした。こういった音楽番組は、スタッフが出来る限りおしゃべりの材料を用意した上で、ディスクジョッキーが自分の言葉で語れるような下地を作ってやるのが大切だ。

***木下委員**

この番組は、大西さんの個性を売り物にしたいのか、それとも60年代から70年代という時代をリスナーに共有してもらいたいのかよく分からない。彼女のキャラクターは悪くないが、当時の唄や時代を語れるバックグラウンドが不足しているので、使い方、育て方を今後考える必要があると思う。

***深井委員**

60年代、70年代の昭和歌謡が主体の番組なので、本来私のような世代が時代を共有出来ないといけないのに、ギャップを感じてしまった。また、サブタイトルが「新世界」なのに、あの通天閣界隈のなんともいえない良さといったものが、大西さんのしゃべりの中にあまり出ていなかったのは残念だ。

***櫻井委員**

若い人にとっては、番組として中途半端な形が、返って新鮮さにもつながるだろうし、聞いていてあまり無理がないような気がした。今後デジタル化を迎える中で、聴く側の選択肢も増えて行くと思うので、番組の個性や方向性といったものを強く打ち出して、番組の側がリスナーを選ぶという時代も来るのではないかな。

***大村副委員長**

私もやはりなんとなく違和感を覚えてしまったが、選曲を見ると大西さんのオタクっぽい面も感じられた。番組の狙いとしては、大西さんの新世界にリスナーが入って行くというより、大西さんが聞き手の世界にぐんぐん入り込んで来るということではないだろうか。

***森委員長**

番組とホールでのライブは全く異質だと思うので、大西ユカリという素晴らしい歌手を持ってきても、かなり強力な構成を考えないと、なつかしい曲は流れるけれど音楽番組としては十分に表現されないという結果になってしまう。練られた構成の中で彼女の魅力を引き出していくことが必要だ。

***荒巻委員（書面）**

この種の番組は、語り手と選曲の魅力が、リスナーを引き付けることができるかどうかのポイントだと思う。私は静かに語りかけてくれる方が好きなタイプだが、大西さんの早口で熱っぽい語り口にくいぐいと引き込まれ、最後まで楽しませてもらった。今後に期待したい。

ラジオ・テレビの4月編成について

ラジオ・テレビの4月編成の概要・特徴について、担当局長がそれぞれ報告した。

日本民間放送連盟の放送基準の一部改正について

日本民間放送連盟の放送基準が一部改正され、新たに「個人情報の取り扱いに十分配慮する」という規定が追加されたことが報告された。

委員の再任について

毎日放送番組審議会では、正副委員長の再任も含め、平成14年度委員の8人全員が再任された。